

特集

知っておきたい皮膚筋炎の 基本と最近の話題

羅針盤

皮膚筋炎について皮膚科医が 知っておくべきこと

沖山 奈緒子

Okiyama Naoko

東京科学大学大学院医歯学総合
研究科皮膚科学分野 教授



皮膚筋炎とは、炎症性筋疾患の一つであり、代表的な膠原病でもある。他の膠原病、たとえば全身性エリテマトーデスと同様に、皮膚筋炎の皮膚症状は疾患特異的であり、診断的価値が高い。したがって、皮膚科医が皮膚筋炎について知っておくべきことの第一のポイントは「どのような皮膚症状をみたときに皮膚筋炎を想起すべきか」である。しかしながら、これこそがもっとも難しい点でもある。皮膚筋炎はきわめて多様性(heterogeneity)に富む疾患であり、皮膚症状も多彩である。一方で、一般的な皮膚疾患と比べれば稀少疾患であるため、見落としてしまって苦い経験をすることもある。他科からのコンサルテーションでも確信をもって診断を下せない場合もある。こうした背景から、本特集では、多彩な皮膚筋炎の皮膚症状について、総説から症例提示まで幅広く皮膚科医の先生方にご執筆いただいた。

さらに、皮膚筋炎を正しく理解し、皮膚症状を見極め、時に主体的に治療にも関与するためには、皮膚科の枠を超えて自己免疫疾患そのものを理解する必要がある。近年、筋炎特異的自己抗体によって臨床像の予測が可能であることはコンセンサスが得られてきている。この観点より、皮膚症状以外の主要症候である筋炎や間質性肺疾患の理解を深め、他の炎症性筋疾患へも知識を広げ、筋炎特異的自己抗体以外の自己抗体についても把握することが重要である。そこで本特集では、各分野のエキスパートの先生方にも原稿をご執筆いただいた。

皮膚筋炎診療に限らず、皮膚科診療は、皮膚という「窓口」をとおして広範な知識を必要とするプライマリ診療である。皮膚科医に求められる素質の一つとして、私は「強い好奇心」をあげたいと考えている。本特集が、皮膚筋炎を題材に、皆様の尽きることのない好奇心を満たす特集となていれば幸いである。